

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
センター長 兼糖尿病・内分泌代謝内科副部長	大槻 朋子

＜関連部署＞

部署名	部署名
糖尿病・内分泌代謝内科	栄養部門

＜特色と概要＞

糖尿病治療の目標は血糖値を良好にコントロールすることにより、合併症の発症、増悪を予防し、健康な人と変わらない寿命を確保することである。そのためには、長期間、患者の生活全般にわたって介入することが必要になる。

糖尿病センターでは患者の長期にわたる療養をサポートするため、外来、入院にて活動を行っている。隔月に糖尿病センター運営委員会を行い、方針の確認を行っている。具体的な役割を以下に挙げる。

- 外来での療養に関する患者サポート(フットケア外来、糖尿病透析予防指導)、慢性合併症の評価
- 糖尿病教育入院中の患者指導(糖尿病教室、DVD教室)
- 市民啓発活動(生活習慣病教室、世界糖尿病デーりんくう健康フェスタなど)
- 血糖自己測定装置の精度管理、患者指導、運用
- 糖尿病療養指導に関わる人材の育成
- 学会発表による発信

＜実績＞

① 糖尿病外来患者の大血管合併症評価の促進

外来通院中の糖尿病患者における大血管合併症の早期発見・早期治療を目的に頸動脈エコー、ABI、心電図を年に1回評価することを目標としている。

2025年度検査件数 (件)

検査名	外来	入院	総計
ABI	118	2	120
心電図検査	130	31	161
超音波検査(断層撮影法)(頸動脈)	138	20	158

上記検査にて異常が認められた場合には循環器内科、脳神経外科に紹介しており、合併症の発見・治療に有用である。引き続き大血管合併症の評価を継続し、更に施行率を高めていく必要がある。

② 糖尿病透析予防指導の状況

糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病腎症2期以上の症例について医師、栄養士、看護師が指導を行った場合に算定可能であり、当院では糖尿病腎症早期予防指導という名称で通院患者の指導を行っている。

2024年度後半より再度対象患者の洗い出しを行い、取り組みを強めた結果、2024年度12名から2025年度は67名に指導件数が増加した。地域の透析患者数の減少を目指して、今後も取り組みを進めていく。

●入院患者の増加についての対策

2021年10月より妊娠関連糖代謝異常(妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠)の患者を当科入院にて血糖コントロールを施行した。糖尿病教育入院については、減少傾向である一方、高齢者の糖尿病患者が増加し、インスリン自己注射・自己血糖測定の習得や必要な支援環境整備のために入院が必要なケースも依然多いため、引き続き必要な患者には入院治療を勧めていきたい。

●院内および院外啓発活動

院外啓発活動として、第9回世界糖尿病デー、りんくう健康フェスタを2025年11月15日(土)に行った。本年は『いのち輝く糖尿病の未来～糖尿病治療の進歩～』をテーマに、当科部長の高野徹医師より「医師が勧める健康食品との付き合い方」の講演、その他健康チェックや体操などを来場者で行い、114名の来場者で盛況であった。

●血糖自己測定器の管理、運用に関して

昨年に引き続き血糖自己測定器について精度管理および患者説明を臨床検査技師にて施行した。

●学会発表について、第62回日本糖尿病学会近畿地方会にて1演題の発表を行った。

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

糖尿病診療は、GLP1製剤、週1回インスリン製剤や持続血糖測定器の登場、青壮年層で入院する時間的・経済的余裕のない患者の増加により、入院数の減少は全国的な傾向である。しかし食事療法の体験や疾患に関する知識を得る重要性は変わらず存在しており、地域のセンター病院として引き続き近医とも連携し必要な患者に教育入院の場を提供していきたい。

また今年度の実感として、第9回を迎えた健康フェスタでは100名以上の地域住民の参加者を迎え、感想文でも「大変勉強になり今後も継続してほしい」旨の内容が多く、また2024年度より再開した生活習慣病教室も回を重ねる度に参加者が増え、感想文は非常に好評であった。当科主催の市民啓発活動が地域に根付いてきた実感があり、今後も基幹病院としての役割と認識し継続・発展させたい。